



日本生態学会

ニュースレター

No.31

2013年9月

[目次]

第61回日本生態学会大会案内2.....	1
----------------------	---

記事

I. 第17回生態学琵琶湖賞報告.....	11
II. 書評依頼図書.....	11
III. 寄贈図書.....	11
IV. 後援・協賛.....	11

お知らせ

1. 公募.....	12
------------	----

書評.....	12
---------	----

京都大学生態学研究センターニュース.....	15
------------------------	----

第 61 回日本生態学会大会案内 -2

第 61 回日本生態学会大会（公式略称 ESJ61）は、大会実行委員会および大会企画委員会により、下記の要領で開催されます。この案内は、郵送される文書としては最終的なものですが、プログラムの内容などは随時更新されますので、最新情報は大会公式ホームページ（<http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>）でご確認ください。

連絡先

〒 739-8521 東広島市鏡山 1-7-1 総合科学研究科気付
第 61 回日本生態学会大会（ESJ61）実行委員会
担当：中越信和（大会会長）、中坪孝之（大会実行委員長）
大会公式ホームページ <http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>

本大会に関する問い合わせは、大会公式ホームページからリンクしている問い合わせページからお願いします（学会事務局にお問い合わせいただいても対応できません）。

日程・会場

2014 年 3 月 14 日（金）～ 18 日（火）
広島国際会議場
〒 730-0811 広島市中区中島町 1-5（平和記念公園内）
URL: <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/>

ESJ61 では、公開講演会、シンポジウム、フォーラム、一般講演（口頭・ポスター）、企画集会、自由集会、高校生ポスター発表、総会、受賞講演会、懇親会を行います。主な日程は下記のとおりですが、申込状況によって変更されることがあります。詳細はプログラム、大会公式ホームページで追ってお知らせしますので、ご確認ください。

3 月 14 日（金） 各種委員会、自由集会
3 月 15 日（土） シンポジウム、企画集会、一般講演（口頭・ポスター）、フォーラム、高校生ポスター発表
3 月 16 日（日） シンポジウム、企画集会、一般講演（口頭・ポスター）、フォーラム、公開講演会
3 月 17 日（月） 総会・授賞式、受賞講演、一般講演（口頭・ポスター）、懇親会
3 月 18 日（火） 一般講演（口頭）、フォーラム、自由集会

企画集会、自由集会の申込については、「企画集会と自由集会」をご覧ください。

申込などの締め切り

各種申込の締め切りは以下の通りです。

新規に入会する講演者・企画者に関して

新規に入会する講演者・企画者の入会申込	2013 年 10 月 23 日（水） 17:00
---------------------	---------------------------

（2014 年学会費入金は 2013 年 10 月 23 日付けまで）

講演者・企画者に関して

企画集会、自由集会、一般講演申込	2013 年 11 月 7 日（木） 17:00
講演要旨登録	2014 年 2 月 4 日（火） 17:00
一般講演口頭発表用ファイルの登録	大会の数日前

高校生ポスター発表者に関して

高校生ポスター発表申込	2013 年 11 月 1 日（金） 17:00
高校生ポスター講演要旨送付	2014 年 1 月 28 日（火） 17:00

入会申込は随時受付中です。その他の各種申込は、締め切りの 1 ヶ月前程度から受け付ける予定です。これらのスケジュールに変更がある場合もありますので、適宜、大会ホームページでご確認ください。

諸経費の金額と支払い方法

大会参加費

2014 年 2 月 4 日（火）まで：一般（会員・非会員とも） 10,000 円
学生（会員・非会員とも） 6,000 円

2014 年 2 月 28 日（金）まで：一般（会員・非会員とも） 11,000 円
学生（会員・非会員とも） 6,500 円

大会当日：一般（会員・非会員とも） 12,000 円
学生（会員・非会員とも） 7,000 円
学部学生以下（会員・非会員とも学生証提示・当日受付に限り）無料

ご注意 大会参加費の前納金額は、各期日までに支払手続きを完了した場合に適用されます。2 月 28 日までは、JTB が運営する参加申込・支払いシステム、アマリス (<https://amarys-jtb.jp/esj61/>) からお支払いください。それ以降は大会会場でお支払いください。キャンセルポリシーに関しては、大会公式ページ (<http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>) をご覧ください。

懇親会費

一般（会員・非会員とも） 7,500 円

学生（会員・非会員とも） 5,500 円

懇親会費には事前登録の割引制度はありません。

- ・日本生態学会の会員手続きにおいて「定収入のない若手会員」の参加費、懇親会費は「学生」として扱えるよう準備していますので、「定収入のない若手会員（2014 年）」と認められた方はその旨を明記して大会参加申込をしてください。

学会費

（詳細は <http://www.esj.ne.jp/office/member/guide.html> を参照）

2013 年 10 月 23 日（水）まで：非会員 2014 年学会費 ※

既会員 2013 年学会費

※大会のため入会（再入会）される場合は、締切までに 2014 年からの次年入会を申込、学会費を納めて下さい。なお既に 2013 年末退会を申込んだ方は、再入会申込ではなく退会キャンセルを申し出て下さい。

- ・学会費と大会参加費は納入先が異なります。ご注意下さい。

参加・講演申込

- ・「大会参加」は、JTB アマリス (<https://amarys-jtb.jp/esj61/>) からお申込下さい。参加費・懇親会費の納入もこちらから行います。
- ・講演・企画される方は、さらに大会公式ホームページ (<http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>) から「大会登録」して下さい（参加のみの方は不要です）。登録されたデータは、プログラムや要旨集の作成に利用されます。

一般講演（口頭・ポスター）

- ・講演者（主たる説明者）になれるのは日本生態学会正会員のみです。既会員の方は 10/23 までに 2013 年会費を納入して下さい。また、発表を希望される非会員の方は、下記の入会方法に従って 10/23 までに入会して下さい。
- ・講演者は、締切までに、大会公式ホームページから大会登録を行ってください。
- ・大会登録時に発行される大会登録番号は、要旨の登録の際に必要となりますので、登録時にご自分で設定するパスワードと合わせて、注意して管理してください。
- ・大会参加申込は、JTB アマリスから行います。受付開始は 10 月はじめの予定です。

シンポジウム講演

- ・大会シンポジウムの講演者は、シンポジウム企画者からの指示に従って手続きを進めてください。

- ・大会企画委員会から認められた招聘・招待講演者を除き、申込・発表できるのは、一般講演と同様に、10/23までに会費を納入した正会員のみです。
- ・要旨の登録には講演者の大会登録番号が必要です。各講演者は、締切までに、大会公式ホームページから大会登録を行い、大会登録番号を取得して下さい。
- ・JTB アマリスから参加申込を行い、参加費を納入してください。受付開始は10月はじめの予定です。ただし、招聘・招待講演者は申込の必要はありません。

企画集会講演

- ・企画集会の講演者は、企画者からの指示に従って手続きを進めてください。
- ・大会企画委員会から認められた非会員講演者を除き、申込・発表できるのは、一般講演と同様に、10/23までに会費を納入した正会員のみです。
- ・企画の登録には各講演者の大会登録番号が必要です。講演者は事前に大会公式ホームページから大会登録を行い、大会登録番号を取得して下さい。
- ・会員・非会員にかかわらず、JTB アマリスから参加申込を行い参加費を納入してください。受付開始は10月はじめの予定です。

自由集会講演

- ・自由集会は学会員である集会企画者の責任によって行われ、講演等を行うのに学会員である必要ありません。また、自由集会のみに参加（講演を含む）する場合には大会参加費は不要です。

聴衆としての参加

- ・非会員でも、大会参加費をお支払いいただければ、聴衆として参加できます。
- ・JTB アマリスから参加申込を行い、参加費を納入してください。当日参加も可能です。
- ・大学の学部学生以下（中・高校生を含む）の大会参加費は、聴衆としての参加に限り無料です。**大会公式ホームページからの事前申込は行いませんので、当日大会の受付に学生証提示の上お申し出下さい。**大会で発表する場合には、通常の手続きが必要です。

【大会参加資格一覧】

講演種別 \ 会員種別	正会員（旧 AB）	非会員・購読会員（旧 C）
一般講演（口頭・ポスター）	○	
シンポジウム企画	○	
シンポジウム講演	○	○
シンポジウム・企画集会・自由集会のコメンテーター *1	○	○
企画集会企画	○	
企画集会講演	○	○ *2
自由集会企画	○	

- ・*1 要旨を登録しないコメンテータ。要旨登録を行うコメンテータの資格は「講演」に準じます。
- ・*2 実行委員会が特別に認めた場合に限り、集会あたり1件まで可能です。詳しくは「企画集会と自由集会」欄を参照。
- ・高校生ポスター発表会については、高校生ポスター発表会「みんなのジュニア生態学」の詳細をご覧ください。

入会方法

下記ウェブページから申込後、必ず受付メールの指示に従い入金してください。10/23 締切厳守。
※学会費納入確認には約5日間かかります。また郵便振替に受付番号等記入なき場合、参加申込に必要な会員番号発行処理が遅れます。ご注意ください。

入会に関する問合せ先（大会に関する問合せには対応できません）

〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8

日本生態学会事務局

<http://www.esj.ne.jp/office/member/index.html>

TEL & FAX 075-384-0250

大会登録の注意点

- ・大会登録番号は、要旨の登録の際に必要となりますので、登録時にご自分で設定するパスワードと合わせて、注意して管理してください。
- ・シンポジウム、企画集会、自由集会、フォーラムの講演は、企画者が一括して申込ますので、講演者が個別に講演申込をする必要はありません。ただし、シンポジウムと企画集会の講演者は、後日講演要旨を登録するため、大会参加申込とは別に大会公式ホームページ（<http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>）から登録を行い、**大会登録番号**を取得して下さい。（シンポジウムと企画集会で講演する非会員の方も、同様に大会登録番号を取得して下さい）。
- ・基本的に申請者の入力ミス（文字化けも含む）は極力訂正しないという方針です。文字化けについても対応いたしません。

大会プログラム

- ・大会プログラムは 2014 年 2 月頃に大会公式ホームページで公開され、どなたでもご覧になれます。
- ・大会プログラム冊子は、同じく 2014 年 2 月頃に日本生態学会員全員に郵送されます（学会費未納の場合は除く）。プログラムの郵送を希望される会員は、必ず 2013 年内に 2014 年の学会費を納入してください。
- ・非会員の参加者には、大会プログラム冊子を大会当日、会場受付でお渡しします。

注意事項 講演要旨集の冊子体廃止

広島大会では、冊子体と PDF 版の講演要旨集の作成を取りやめることになりました（大会プログラムはこれまで通り冊子体も作成され配布されます）。HTML 版講演要旨は、2 月中に大会公式ホームページ（<http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>）から閲覧できる予定です。また、大会のすべての講演要旨は学会サイト（<http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/index.html>）から ZIP 形式の圧縮ファイルで一括して入手できるようになる予定で、それを解凍して個人のパソコン等に入れておけば、ネット上と同じように閲覧したり、日程表、講演者やキーワードを検索することが可能です。詳しくは、会長からのメッセージ 14 をご覧下さい（<http://www.esj.ne.jp/esj/message/no0314.html>）。

各種集会の企画提案

- ・シンポジウムの企画提案はすでに締め切られています。
- ・企画集会、自由集会、フォーラムについては、「企画集会と自由集会」「フォーラム」をお読みの上、企画をご提案ください。
- ・企画提案時の概要（11 月 7 日（木）締め切り）がそのままプログラム・要旨集に掲載されます。また、差し替えには一切応じられませんので、ご了承ください。

企画集会と自由集会

- ・本大会では、下記の要領で、企画集会と自由集会を募集します。企画集会と自由集会は一括して募集されます。下記の趣旨をご理解のうえ、奮ってお申込下さい。
- ・企画集会・自由集会ともに、企画者は日本生態学会正会員である必要があります。企画集会、自由集会とも開催時間は約 2 時間の予定です。いずれの集会についても、大会企画委員会は内容に関与しませんが、概要などに個人および団体を誹謗中傷する内容などを含むと判断されるものについては、その限りではありません。

企画集会

- ・企画集会の個別の講演の要旨は、講演要旨集に掲載されます。全体の趣旨説明と概要もプログラムと講演要旨集に掲載されます。
- ・企画集会の企画者・講演者はシンポジウム及び他の企画集会の企画者・講演者になることはできません。
- ・企画集会の企画者・講演者は一般講演（口頭発表、ポスター発表とも）の講演者にもなりません。
- ・企画集会での講演者（主たる説明者）は原則、日本生態学会会員に限定されます。非会員による講演は特に事情がある場合に限り、**企画あたり 1 件まで**認められます（申込方法は下記を参照）。ただし、同一の非会員が

2年連続で、企画集会で講演することは認められません。また、非会員の講演者に対する大会参加費の免除は行いません。

- ・要旨登録を行う「趣旨説明」や「コメント」は1講演とみなされ、その応募資格や重複制限は「講演」に準じます。要旨登録を伴わない趣旨説明やコメントは講演には数えません。
- ・限られた会場を平等に分け合って使用するため、企画集会はできるだけ3人以上の講演者で構成して下さい。

自由集会

- ・自由集会は、新しい分野の立ち上げを助け、生態学の枠組みからはみ出す話題についても自由に議論できる場として、生態学会が伝統的に重視してきた集会です。しかしあくまでも関連集会であって、大会の正式行事ではありませんので、自由集会のみの参加者は大会参加者とはみなされません。
- ・自由集会では、全体の趣旨説明と概要のみがプログラムと講演要旨集に掲載され、個別の講演の要旨は掲載されません。
- ・一般講演、シンポジウムなどとの重複発表は認められますが、原則として日程の調整は行いません。
- ・大会の正式行事ではありませんので、**会場は集会主催者が責任をもって管理して下さい。**
- ・自由集会の時間枠は、大会初日の各種委員会や全国委員会と並行した時間帯等に設定される可能性が高くなっています。これらの委員を企画・講演者・コメンテータ等を含む集会についても、原則として開催時間の調整は行いません。

応募要領

企画集会または自由集会の開催を希望される方は、2013年11月7日（木）17:00までに大会公式ホームページ（<http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>）から集会の提案・概要登録を行って下さい。この際、講演者（主たる説明者及び共同発表者）と講演タイトルも併せて登録します。登録には、集会企画者と企画集会の各講演者（主たる説明者）の大会登録番号が必要になります。大会登録番号は、企画者および各講演者が大会公式ホームページから登録を行うと発行されます（『参加・講演申込』欄参照）。

企画提案時の概要がそのままプログラム・要旨集に載ります。また、差し替えには一切応じられませんので、ご了承ください。

企画集会で非会員の講演を希望する場合

- ・企画者は、集会の提案・概要登録の際に、登録システムの「非会員による講演の申請」欄に、非会員講演者の氏名と、その方の講演を必要とする理由を記入して下さい。
- ・非会員の講演予定者は、他の講演者と同様の手続きにより大会登録番号を取得して下さい（『参加・講演申込』欄を参照）。
- ・以上の手続きのメ切は、いずれも**11月7日（木）17:00**です。非会員による講演の可否は11月18日（月）までに企画者あてメールでご連絡します。

企画集会と自由集会の採否について

- ・企画集会は、自由集会に優先して採択されます。提案された集会（企画集会・自由集会）の数が会場の収容可能数を上回る場合には、全部の自由集会の開催を取りやめても会場が足りない場合にのみ抽選を行い、企画集会の採否を決定します。
- ・自由集会の提案数が会場の収容可能数を上回る場合には、同一会員が重複して複数の集会（自由集会・企画集会）の企画者となっている自由集会を不採択とします。次に、大会シンポジウム企画者による自由集会を不採択とします。それでも数が多い場合には、抽選で自由集会の採否を決定します。
- ・限られた場所と時間を分け合って使うため、シンポジウムおよび企画集会の企画者・講演者は自由集会の企画を可能なかぎりご遠慮下さい。2つ以上の自由集会の企画・講演もご遠慮下さい。
- ・開催の可否については、11月18日（月）までにメールでご連絡します。

大会シンポジウム・企画集会・自由集会の違いは以下の通りです。

	シンポジウム	企画集会	自由集会
位置づけ	大会の核となる集会。大会の正式行事	シンポジウムに次いで核となる集会。大会の正式行事	様々な話題を自由に議論できる場。大会の正式行事ではありません
開催時間	約3時間	約2時間	約2時間
開催の優先度	最優先されます	シンポジウムの次に優先されます（自由集会の開催を全て取りやめても会場が足りない場合のみ、抽選で採否を決定します）	優先されません（会場が足りない場合は抽選で採否を決定します）
日程・時間	最優先されます（聴衆の集まりやすい日時に割り当てられ、同時開催集会が少なくなるよう考慮されます）	シンポジウムの次に優先されます	優先されません
企画運営段階での企画委員会の関与	関与します。企画委員がコーディネーターとして企画運営を支援します。内容の重複がみられる場合、複数のシンポジウムの合体を勧めることがあります	特定の個人や団体を誹謗中傷する内容がないかなど最低限の事項のみを審査します	特定の個人や団体を誹謗中傷する内容がないかなど最低限の事項のみを審査します
企画者の資格	会員	会員	会員
非会員による講演	奨励します（招待講演者として参加費が免除されることがあります）	1件まで可（同一非会員の2年連続は不可）。大会参加費を支払う必要があります	認められます（自由集会での非会員講演者が大会の他行事に参加する場合には、大会参加費を支払う必要があります）
海外からの招待講演者への学会からの旅費支給	2件程度認められます	なし	なし
一般講演との重複発表	不可	不可	可
他集会との重複発表	自由集会・フォーラムのみ可能	自由集会・フォーラムのみ可能	全て可能
提案締切日	7/31（水）	11/7（木）	11/7（木）
概要登録/集会の概要及び講演者(主たる発表者及び共同発表者)と発表タイトルの登録締切日	11/7（木）	11/7（木）	11/7（木）
プログラムおよび要旨集への掲載内容	集会概要が掲載されます。要旨集には各講演の要旨も掲載されます	集会概要が掲載されます。要旨集には各講演の要旨も掲載されます	集会概要のみ掲載されます

フォーラム

フォーラムとは、生態学会の各種委員会が企画し、生態学会の運営や学会が取り組んでいる生態学に関連する課題について広く会員の意見を募り、会員相互の情報共有を促すことや、広範な議論により学会内の合意を形成することを目指すものです。フォーラムの企画やフォーラムでの話題提供は、**重複講演制限の対象となりません**。申込は各委員会代表者が行います（別途ご案内します）。

一般講演

一般講演には口頭発表とポスター発表があります。申込時に希望（口頭発表かポスター発表）をお聞きますが、会場が限られているため、**口頭発表を選択していただいても、ポスター発表していただく可能性があります**。

発表内容に応じて会場・時間の割り振りやポスター賞のグループ分けを行うため、発表申込時に希望分野を選んでいただきます。一般講演申込のフォームに選択可能な分野一覧が示されます。人数や会場の制約のため、希望された分野で発表できない可能性があります。以下は発表申込のときに示される発表分野（候補）の一覧です。

海外からの招待者や留学生など、日本語を解さない参加者との交流のためにも、英語での発表や、日本語の発表の場合でも一部英語併記を推奨します。

群落／植物個体群／植物生理生態／植物繁殖／植物生活史／送粉／種子散布／菌類／微生物／景観／遷移・更新／フェノロジー／動物と植物の相互関係／進化／種多様性／数理／動物群集／動物繁殖／動物個体群／動物生活史／行動／動物の社会性／分子／古生態／保全／生態系管理／外来種／都市／物質生産／物質循環／生態学教育・普及

注意：

- ・一般講演の講演者（主たる説明者）は、日本生態学会会員に限り（共同発表者は会員である必要はありません）。
 - ・一人で二つ以上の講演の演者になることはできません（共同発表者になることは差し支えありません）。
 - ・さらに、シンポジウムの企画者・講演者、企画集会の企画者・講演者は一般講演は行えません（口頭・ポスターとも）。
- これらの制限は、いずれも限られた場所と時間を分け合って使うための措置ですので、ご理解ください。

口頭発表の方法

- ・口頭発表は、会場備え付けの機器を使用したマイクロソフト・パワーポイントあるいはPDFによる発表とします。持ち込みのコンピューターは使用できません。発表用ファイルの登録方法などは現在検討中ですが、登録締め切りは大会開始の数日前となる予定です。詳細は、大会ホームページで追ってご案内します。

ポスター発表の方法

- ・ポスターボードは縦長（90 cm × 210 cm）のものを使用する予定です。ポスター発表は、大会期間中に2～3日に分けて行い、最大約1,200件のポスター発表を収容できる予定です。ポスター発表の申込数が収容可能数を超えた場合は、一部の方に、口頭発表への変更をお願いすることがあります。
- ・海外からの招待者や留学生など、日本語を解さない参加者との交流のためにも、英語での発表や、日本語の発表の場合でも、一部英語を併記したり、英語版の別刷りを用意したりすることを推奨します。

ポスター賞

- ・若手研究者の研究活動を奨励するために、優秀なポスター発表に賞を贈ります。応募資格については、下記をご参照ください。ポスター発表に関する詳細は大会ホームページにも掲載しますので、ポスターを準備するときの参考にしてください。

ポスター賞応募資格について

本大会では、主たる発表者のポスター賞応募資格について以下の条件を設けます。

1. 一般講演申込締め切り期限（2013年11月7日）の時点で博士号未取得の若手会員（学部学生、大学院生、研究生）とします。
2. 過去の日本生態学会大会（ESJ）ポスター賞「最優秀賞」または「優秀賞」を受賞した者は、上記の条件を満たしていても応募できないものとします。過去の日本生態学会大会はEAFESと合同で運営された大会を含みます。

ポスター賞審査の要点

選考上重視されるポイントには以下のようなものがあります。ポスター賞応募者は、これらの点に十分考慮してポスター作成をお願いします。

（A）ポスターの情報伝達能力

ポスター発表では、研究内容がわかりやすく表示されているかが重要です。例えば、（1）良いタイトル、（2）わかりやすい要旨、（3）視線を引きつける工夫、（4）短時間でおおまかな内容が伝えられる工夫などが必要でしょう。そのためには、字・図表が遠くからでも判読できる、情報過多でない、説明なしでも要点が理解できることなどが重要です。

（B）研究の質

- （1）新規性・独創性、（2）データの質・量、（3）解析方法の妥当性、（4）議論・結論の妥当性について審査されます。

なお、これまで審査対象であった「発表技術」については、審査対象からはずすこととしました。優れたポスターは読んだだけでその意義を理解できると考えられるためです。また、ポスター賞の応募者が多いため、審査に要する負担が著しく高まっていることも理由の一つです。ただし、ポスターを見ただけでは評価しにくい項目については、審査員が発表を聴き質問して評価することがあります。

また、本学会では国際交流に力を入れて取り組んでいます。このため、日本語を理解しない研究者に対して配慮がなされているかも重視します。審査の際には使用言語に関わらずポスターの内容についてのみ評価しますが、審査の結果同票だったポスターについては英語による理解が可能なポスターの順位を繰り上げます。英語による

理解が可能なポスターとは、少なくとも、タイトル、イントロおよび結論が英語併記される等して、英語を読むだけで研究の概要を理解できる場合、あるいは英語の別刷りが用意されている場合に該当します。

高校生ポスター発表「みんなのジュニア生態学」募集

高校生ポスター発表会「みんなのジュニア生態学」は、生態学の社会への普及のため、日本生態学会によるアウトリーチ活動の一環として企画します。大会会期中に高校生にポスター発表をしていただき、生態学に関連する諸分野の研究者や学生との交流を通して、生態学全般への関心をもっていただくのが本企画のねらいです。生き物の生態や環境に関わる生物学の内容であれば、どのような分野や題材の発表でも大歓迎です。

要項

【日時】 2014 年 3 月 15 日（土）

開場：9 時 00 分（到着したら受付を済ませてポスターを貼り出してください）。

発表コアタイム（発表・審査）：11 時 00 分～13 時 00 分（遠方の高校は 12 時 00 分～14 時 00 分）

成績発表・表彰式：15:30～16:00（成績発表・表彰式）

【会場】 広島国際会議場 地下 2 階 高校生ポスター会場

【参加費】 無料。発表者の全員（人数に制限なし）および引率者は、大会参加費が免除されます。

【発表資格】 原則として、高等学校または高等学校に相当する教育機関に在籍する生徒であること。国籍は問いません。

【発表内容】 生態や環境に関わる生物学の内容であれば、なんでも受け付けます。研究成果でなくても、諸活動の計画、現状、または問題点などの中間報告でも結構です。

【発表方法】 本大会の指定するパネルサイズ（横 90 cm × 縦 210 cm）に納まるポスターであること。当日、9 時にはポスターを貼ることができます。発表者（複数可）は、発表コアタイムにポスターの説明を口頭で行ってください。なお、当日 10 時までに会場に到着できる高校につきましては、11 時 00 分から 13 時 00 分までをコアタイムとします。遠方の高校で 10 時までに会場に到着することができない場合には、12 時 00 分から 14 時 00 分までをコアタイムとします。

【審査員】 ポスター 1 件につき複数名の審査員が配置され、質問やコメント、アドバイスをします。

【ポスター賞】 選考委員会が内容を評価し、発表されたポスターは最優秀賞、優秀賞などとして表彰します。

申込手順

発表を希望する高校は、2013 年 11 月 1 日（金）[一般：11 月 7 日（木）] 17:00 までに、電子メールで件名に『みんなのジュニア生態学』と記入して、下記、申込事項（1）～（4）を送付先メールアドレスに送ってください。なお発表希望申込数が非常に多い場合には、申込先着順で打ち切る可能性もありますので、早めのお申込をよろしくお願いいたします。

発表要旨（日本語で 500 字以内）は、2014 年 1 月 28 日（火）[一般：2014 年 2 月 4 日（火）] 17:00 までに電子メールで件名に『みんなのジュニア生態学発表要旨』と記入して、メール本文に貼り付けて以下の送付先メールアドレスに送ってください。文字化けの原因となる文字（囲み数字、囲みアルファベット、外字）が含まれていないかを送信前に確認してください。

【注】申込や要旨登録の不備に高校生ポスター部会が対応するため、高校生ポスターの申込と要旨登録の締め切りは一般講演よりも早めになっております。くれぐれもご注意ください。なお、申込内容や要旨の修正の要望が例年多数寄せられます。登録段階で以後の修正がないようにご配慮をお願いします。これらの修正は、一般講演の締切後は、いかなる理由があろうとも対応できない規約になっていますので、あらかじめご承知願います。

申込事項

（1）責任者（顧問教師、保護者など）の情報

a. 氏名（フリガナも）

b. 住所（職場／自宅を選択）

c. 電話番号（職場／自宅／携帯を選択）

d. E-mail アドレス

e. 緊急の連絡先（責任者の電話番号など）

f. 連絡してよい時間帯

注）申込に関する責任者は教師や保護者とします。必ずしも、大会当日に生徒を引率する方でなくてもかまいませんが、要旨登録などの諸手続きに責任を負っていただける方にしてください。なお、e. 緊急の連絡先には、

大会当日だけでなく、大会準備期間にもご連絡差し上げる可能性がございます。日本生態学会は各種申込の締め切りに非常に厳格です。発表申込や要旨登録の締め切り直前に、登録内容の不備を発見した場合などには、緊急で連絡させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

(2) 学校の情報

- a. 高校名（フリガナも）
- b. 高校の住所
- c. 高校の電話番号（代表）

(3) 発表ポスターの情報

- a. タイトル
- b. ポスター著者全員の氏名と所属
表記例： 山田花子、田中太郎（広島科学高校）、鈴木一郎、伊藤さちこ（広島農業高校生物部）
注）顧問教師の方もポスター著者に加わることができます。
- c. 発表者の氏名（高校生に限る）

表記例：山田花子、田中太郎

注）ポスター著者のうち、実際に大会に参加し発表する方の氏名を書いてください。引率者を含めないでください。

(4) 引率者の情報

- a. 氏名（フリガナも）
- b. 引率者の緊急の連絡先（携帯電話番号）

送付先／お問合せ先

大会企画委員会・高校生ポスター担当 嶋田正和
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学総合文化研究科／教養学部3号館
電話 03-5454-6796、FAX 03-5454-6998
E-mail: hs_poster@mail.esj.ne.jp

英語口頭発表賞

本大会では、英語口頭発表賞を設けて審査を実施します。賞の運営・審査については下記をご参照ください。英語口頭発表賞の詳細は、ホームページ（<https://sites.google.com/site/esj61engpresenawardjp/>）にも掲載しますので、準備の参考にしてください。

運営・審査方針

この賞には、大会での英語を用いた「科学コミュニケーション」を振興する目的があります。単なる英語スピーチコンテストではありません。応募者は聴衆の多くが必ずしも英語を母国語とはしないこと、また、さまざまな研究背景を持つことを前提に、自身の研究成果をより多くの人にわかりやすく伝えるよう努力してください。結果として意思伝達が不十分な場合でも伝達しようとする意欲や工夫を審査では評価したいと考えています。

運営の流れ

- ・応募者は英語口頭発表賞に仮エントリーする（7月31日に締め切りました）。
- ・英語賞WG（以下WG）は講演内容別に複数のセッションに振り分けます。このとき応募者多数の場合は部門によっては一部を不採択としたり、応募者少数の場合は、部門ごとに分かれずに分野横断的に審査を行ったりする場合があります（9月中旬までに決定）。
- ・WGは部門毎に最低3人の審査員を依頼します。
- ・WGはエントリーした応募者に、発表賞参加の採否を伝えます。同時に参加申込と大会登録を行うよう応募者に通知します（9月末まで）。
- ・必要であれば、審査対象の講演の間にシニア研究者によるゲスト講演を依頼します。

審査方法の大枠

- (1) 各審査員は各発表を研究の中身（質）への比重を50%、聴衆への配慮や熱意などへの評価を50%とし、絶対評価します。

- (2) 上記評価は絶対評価のため、審査員ごとに上位 1、2、3 位を選び、その順位を集計して部門ごとに受賞者を決定します。

＜スライド作成上の注意＞

- ・口頭説明の言語は英語ですが、発表スライドは英語または和英併記とします。
- ・審査方法の詳細は以下の URL をご覧ください。

<https://sites.google.com/site/esj61engpresenawardjp/evaluation>

公開講演会「里山のこれまでとこれから」

里山ランドスケープを将来に引き継いでいくための方法と、具体的な活動が求められています。そのためには、里山ランドスケープが持つ価値と、価値の創出と維持に必要な生態的・社会的特性についての基本的知見を共有する必要があります。公開講演会では、里山ランドスケープの歴史とその現状、その保全・再生活動の実践につなげていくための新たな社会のしくみについてを紹介します。

日本生態学会第 17 回公開講演会「里山のこれまでとこれから」

場所：広島国際会議場

日時：2014 年 3 月 16 日〔日〕 13:30 ～ 17:00

プログラム

開会のあいさつと趣旨説明：中越 信和（大会会長）

講演：鎌田 磨人（徳島大）、伊藤 哲（宮崎大）、石井 実（大阪府大）、深町 加津枝（京都大）、

高橋 佳孝（近畿中国四国農業研究センター）

司会：白川 勝信（芸北高原の自然館）

懇親会

懇親会は 3 月 17 日（月）18:30 ～ ANA クラウンプラザホテル広島（会場から徒歩で約 10 分）で行います。名産地広島の地酒のほか、必見の企画も準備しています。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

託児所

これまでの大会と同様に、大会会場の広島国際会議場内に託児室を設置する予定です。開設時間や申込方法などの詳細は、大会ホームページで追ってご案内します。

「エコカップ 2014 広島大会」のご案内

大会サテライト企画として、日本生態学会大会に合わせて開催されてきた親善フットサル大会（5 人制のミニサッカー）は、今大会も開催されます。詳細はホームページ（<https://sites.google.com/site/ecocup2014/>）にてご確認ください。

宿泊・交通案内

大会会場（広島国際会議場）へは公共交通機関をご利用ください。最寄の駅は JR 広島駅です。JR 広島駅から大会会場までは市内電車や路線バスで 20 ～ 25 分程度です。広島空港からは市中心部の広島バスセンターまでリムジンバスが出ています。バスセンターから大会会場までは徒歩で 10 分程度です。

大会中の宿泊は各自での手配をお願いします。JTB アマリスにも宿泊に関する情報が掲載される予定です。広島駅から広島平和公園にかけての広島市中心部には多くの宿泊施設がありますが、大会期間中は混み合うことが予想されますので、早めの手配をお勧めいたします。

大会会場に近い本通り周辺（徒歩で 10 分程度）には多くの飲食店がありますが、会期中には昼食弁当の予約販売も行う予定です。詳しくは、大会公式ホームページで追ってご案内します。

ご意見

大会企画委員会では、大会運営についてのご意見を随時受け付けています。大会公式ホームページにある問い合わせページからお寄せください。

記 事

I. 第 17 回生態学琵琶湖賞報告

生態学琵琶湖賞は、水環境に関連する生態学およびその周辺分野における 50 歳未満の優れた研究者に贈られる賞です。滋賀県によって 1991 年に創設され、第 15 回より日本生態学会が実施主体となりました。厳正な選考の結果、以下の 2 名が受賞され 2013 年 7 月 6 日に瀬田アーバンホテルにて授賞式および受賞記念講演が行われました。

【受賞者】

大手信人氏(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)
中野伸一氏(京大生態学研究センター教授)

II. 書評依頼図書(2013 年 2 月～2013 年 8 月)

現在、下記の図書が書評依頼図書として学会事務局に届けられています。書評の執筆を希望される方には該当図書を差し上げます。ハガキ又は E メールで、ご所属・氏名・住所・書名を学会事務局 (office@mail.esj.ne.jp) までお知らせ下さい。なお、書評は 1 年以内に掲載されるようご準備下さい。

1. 川那部浩哉・水野信彦監修 中村太士編「河川生態学」(2013) 356pp. (株) 講談社 ISBN:978-4-06-155232-6
2. 松浦健二著「シロアリ女王様、その手がありましたか!」(2013) 120pp. 岩波書店 ISBN:978-4-00-029602-1
3. 桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之編著「オホーツクの生態系とその保全」(2013) 500pp. 北海道大学出版会 ISBN:978-4-8329-8208-6
4. 前迫ゆり編「世界遺産春日山原始林－照葉樹林とシカをめぐる生態と文化－」(2013) 256pp. ナカニシヤ出版 ISBN:978-4-7795-0744-1
5. 市川昌広・祖田亮次・内藤大輔編「ボルネオの<里>の環境学 変貌する熱帯林と先住民の知」(2013) 230pp. 昭和堂 ISBN:978-4-8122-1319-3
6. 四方篤著「焼畑の潜在力－アフリカ熱帯雨林の農業生態誌」(2013) 214pp. 昭和堂 ISBN:978-4-8122-1306-3
7. 伊藤元己著「植物分類学」(2013) 146pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-062221-9
8. ダニエル・チャモヴィッツ著 矢野真千子訳「植物はそこまで知っている 感覚に満ちた世界に生きる植物たち」(2013) 192pp. 河出書房新社 ISBN:978-4-309-25280-3
9. 小山重郎著「昆虫と害虫 害虫防除の歴史と社会」(2013) 288pp. 築地書館 ISBN:978-4-8067-1456-9
10. 川井唯史・中村太士編「北海道水辺の生き物の不思議」(2013) 208pp. 北海道新聞社 ISBN:978-4-89456-696-8
11. 樋口広芳著「鳥・人・自然 いのちのにぎわいを求めて」(2013) 340pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-063336-9

12. 帰山雅秀・永田光博・中川大介編著「サケ学大全」(2013) 298pp. 北海道大学出版会 ISBN:978-8329-8210-9
13. 遠藤秀紀著「動物解剖学」(2013) 122pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-062222-6
14. 毛利衛・進士五十八責任編集「地球社会の環境ビジョン－これからの環境学－」(2013) 214pp. 財団法人日本学術協力財団 ISBN:978-4-9904989-5-5
15. 牧野光琢著「日本漁業の制度分析 漁業管理と生態系保全」(2013) 256pp. 恒星社厚生閣 ISBN:978-4-7699-1454-9
16. 東京大学アジア生物資源環境研究センター編「アジアの生物資源環境学 持続可能な社会をめざして」(2013) 248pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-071106-7

III. 寄贈図書

1. 「下中記念財団創立 50 周年記念表彰事業論文集」(2013) 112pp. 公益財団法人下中記念財団
2. 「大分生物談話会会誌 第 10 号」(2013) 166pp. 大分生物談話会
3. 「Marine Geology Map no.79 (CD)」(2013) 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
4. 「Marine Geology Map no.80 (CD)」(2013) 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
5. 「うみうし通信 No.79」(2013) 12pp. 公益財団法人水産無脊椎動物研究所
6. 「Marine Geology Map no.81 (CD)」(2013) 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター

IV. 後援・協賛

日本生態学会では、下記のシンポジウム・セミナーを後援・協賛しました。

1. 公開シンポジウム「自然共生社会を拓くプロジェクトデザイン:文理協働による統域科学のキックオフ」
日時: 2013 年 4 月 23 日 午後 1 時～5 時
会場: 東京大学農学部キャンパス中島記念ホール
2. 第 15 回マリンバイオテクノロジー学会大会
日程: 平成 25 年 6 月 1 日(土)～2 日(日)
会場: 沖縄県市町村自治会館
3. 平成 25 年度「女子中高生夏の学校 2013 ～科学・技術者のたまごたちへ～」
会期: 平成 24 年 8 月 8 日～10 日
会場: 独立行政法人 国立女性教育会館
4. 2013 年度コスモスセミナー自然観察教室「集まれ昆虫好きな子供たち 2013」
期日: 2013 年 8 月 6 日～8 日
5. 応用生態工学会公開シンポジウム「都市河川の自然再生と防災を考える」
日時: 2013 年 9 月 21 日(土) 13:00～16:00
場所: 大阪府立大学 I-site なんば
6. 国立大学法人横浜国立大学総合的海洋教育・研究センター主催公開コロキウム「減る水産物、増える海獣－絶滅危惧の水産生物と持続可能な漁業－」

日時：2013 年 9 月 28 日（土）13:30 ～ 17:00
場所：横浜国立大学教育文化ホール大集会室

TEL：042-540-0429 FAX：042-528-0107

お 知 ら せ

1. 公募

日本生態学会に寄せられた公募について、①対象、②助成又は賞などの内容、③応募締め切り、④申し込み・問い合わせ先をお知らせします。

(1) 鹿島学術振興財団 2012 年度研究助成

- ①都市・居住環境の整備及び国土・資源の有効利用および文化的遺産・自然環境の保全等による国民生活の向上に寄与する研究
- ②総額 3,700 万円。1 研究課題への助成金は、継続間（2 年目）を含めて合計 300 万円以内
- ③2013 年 11 月 10 日（日）
- ④日本生態学会事務局（学会推薦が必要です）

(2) 平成 26 年笹川科学研究助成

- ①〔一般科学研究〕人文・社会科学および自然科学（医学を除く）に関する研究。〔海洋・船舶科学研究〕「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」の研究で、その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）。〔実践研究〕博物館や学校、NPO などに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題を解決するために行う研究。
- ②学術研究部門 100 万円／件、
実践研究部門 50 万円／件
- ③学術研究部門は 10 月 15 日（火）17:00 まで、
実践研究部門は 11 月 15 日（金）17:00 まで
- ④公益財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成係 〒107-0052 東京都港区赤坂 1 丁目 2 番 2 号 日本財団ビル 5F
TEL 03-6229-5365 FAX 03-6229-5369

(3) 第 52 回下中科学研究助成

- ①学校の先生方の教育のための真摯な研究を助成。自然科学および科学教育にかかわる研究を重視していますが、広く教育全般にかかわる今日的課題を取り上げたものを期待します。
- ②総額 900 万円、1 件あたり 30 万円。30 件を予定
- ③2013 年 12 月 10 日（当日消印有効）
- ④公益財団法人下中記念財団事務局

(4) 公益財団法人昭和聖徳記念財団学術研究奨励

- ①系統分類に関する研究
- ②原則として 1 件あたり 50 万円以内
- ③平成 25 年 12 月 10 日（火）必着
- ④公益財団法人昭和聖徳記念財団「学術研究」係
〒190-0012 東京都立川市曙町 2-34-13 オリニック第 3 ビル

(5) 平成 26 年公益財団法人とうきゅう環境財団研究助成

- ①多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動
- ②専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの
1 件当たりの上限額 400 万円
一般市民が特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの
1 件当たりの上限額 100 万円
- ③2014 年 1 月 15 日（水）消印有効
- ④公益財団法人とうきゅう環境財団事務局
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-16-14 渋谷地下鉄ビル内

書 評

N. Yamamura・N. Fujita・A. Maekawa Editors (2012)
「Ecological Research Monographs The Mongolian Ecosystem Network」Springer 320pp. ISBN: 978-4-431-54051-9

まず本書のタイトルの ecosystem network とは何だろうか？ 評者が最初に想像したのは、異なる生態系タイプが混在する地域（景観）があり、その生態系どうしが複雑に相互作用を結んでいるというイメージだった。つまり、食物網の図で種を生態系に入れ換えたイメージである。しかし、評者の想像とは異なり、本書のいう ecosystem network は、人間の社会システム（政治・経済など）も包括した概念であり、生態系だけを研究対象とする従来の生態学の範疇には収まらないものであった。本書全体の序論となっている第 1 章によると、ecosystem network とは「生態的サブシステムのネットワークが人間社会のネットワークと相互作用する社会—生態システム（social-ecological system）」のことである。そうであるならば、ecosystem network という表現は生態系だけを扱っているかのような印象を与えるので、適切とは思えなかった。本書第 1 章で引用されている論文の題名で使われている social-ecological system という表現だと、生態系だけでなく人間の社会システムも含むことが明瞭であり、よりふさわしいと感じた。network という言葉を使いたいのであれば、social-ecological network などとすればよかったのではないかな。なお、social-ecological system という言葉は、1998 年から使われ始め、今では生態学と関連する学際的な研究分野では頻繁に使われているようだ。Google Scholar で検索すると 3790 件がヒットし、“social-ecological system” をタイトルに含む論文には 2005 年出版で 1000 回以上引用されているものもある。

本書の対象とする生態系は、モンゴルの草原地帯である。自然植生は草原であるが、人間活動により、その一部は劣化したり、農地に転換されたり、鉱山開発によって破壊されたりしている。自然植生が草原といっても、それが気候を反映した極相であるとは限らず、人間活動

を反映した火災・伐採・過放牧などによって森林が衰退した結果として成立しているのかもしれない（第2章、第7章、第10章）。また、人間活動だけでなく、気候変動の影響で今後森林が草原化し、また、草原が砂漠化していくのかもしれない（第6章）。つまり、草原地帯といっても異なるタイプの生態系が存在し、ある場所に成立する生態系のタイプは時間の経過とともに別のタイプに変化する。これが、生態的サブシステムのネットワークという概念を必要とする理由である（第1章）。ある地域内に存在する異なる生態系を被覆面積や土地利用の面から解析するという点では景観生態学と共通するアプローチを取っている。

生態系と相互作用する人間社会システムとしては、現地住民（家畜を含む）・市場と経済・政府を考えている。これらはモンゴルという国家の内部に存在し、モンゴルの生態系と直接的に相互作用する。いっぽう、非政府組織・国際機関・外国企業などはモンゴルの外部に存在するので、生態系に影響を与える気候変動とともに、モンゴルの ecosystem network の外側に存在する外的要因（external factors）とされる（第1章図1.1）。ただし、外国企業や国際経済は直接的にモンゴル内部の住民や生態系に影響を与えるので、モンゴルの ecosystem network の一部を構成すると考えるほうがよいかもしれない（第1章図1.2）。たとえば、家畜生産物の国際価格が上昇するという国際経済の動向は、モンゴルの放牧民の行動に直接影響を与え、過放牧を招く。同様に、外国企業による鉱山開発は直接的にモンゴルの生態系を破壊する。

本書は総合地球環境学研究所（地球研）のプロジェクトの成果がもとになっている。本書のまえがきによると、地球研の目的は「地球環境問題の解決に向けて総合的な（integrated）共同研究」を推進することである。「総合」ということの具体的意味は、具体的には自然科学と人文社会科学の両者からのアプローチ（文理融合）ということであろう。本書の主題が自然科学の枠を超えて人間社会を明示的に組み込んだ ecosystem network であるのは、そのような地球研の目的に沿っており、本書の構成もそれを反映した3部構成となっている。第1部は「Ecosystem network and Mongolian nomadism」というタイトルであり、序論的な3章を含む。第2部は「Natural environment and the ecosystem network」であり、生態系についての10章からなる。第3部は「Socioeconomic activity and the ecosystem network」であり、人間の社会システムについての8章からなる。第2部も第3部もタイトルが示すように、ecosystem network との関係という観点からまとめられている。しかし、生態系と社会システムの相互作用を正面から扱う章は冒頭の第1章だけであり、文理融合が十分に果たされているという印象は受けなかった。第1章では、ecosystem network の概念図に基づき、「過放牧タイプ」と「鉱山開発タイプ」という2つの環境問題の概念モデルが提出される。この整理にはなるほどと思われたが、わずか2ページだけの説明にとどまり、モデルに基づく十分な議論はされていない。最後に第4部として、このモデルの妥当性を第2部と第3部の結果に照らし合わせて検討する章があったほ

うがよかっただろう。

このように文理融合という観点から見ると不十分な印象を受けるが、長い時間をかけてほぼ独立に発展してきた自然科学と人文社会科学が簡単に融合できるはずもなく、実のところ生態学者である評者にとってそんなことは大した問題ではない。とりあえずはモンゴルの生態系についてしっかりした情報が得られれば十分である。モンゴルの気候は、北部は寒冷で湿潤なのに対し南部は温暖で乾燥している。これを反映して、モンゴル全体を俯瞰するマクロなスケールでは、生態系は北から南へと森林、森林ステップ、ステップ、乾燥ステップ、砂漠というふうに移り変わる（第3章）。異なる生態系の移行部となっている地域をミクロなスケールで見ると、斜面方位によって異なる生態系（北向き斜面に森林、南向き斜面に草原）が隣り合って存在する（第6章）。このようにモンゴルでは森林・草原・砂漠という相観が大きく異なる生態系が連続的に変化していく様子を見ることができ、ecosystem network というタイトルからこれら多様な生態系がひとつとおり扱われているのではないかという期待があったが、前述のとおり本書の対象は草原（ステップ）生態系であり、森林を大きく扱っているのは第7章だけで、その意味ではやや期待はずれであった。ただし、もちろんモンゴルの草原生態系については、植物種の組成・水文環境・土壌の化学性・放牧や気候変動の影響など様々な面についての情報が得られ、貴重な情報源になるだろう。

（鹿児島大学理学部地球環境学科 相場慎一郎）

小島寛著（2012）「カナダの植生と環境」北海道大学出版会 284pp. ISBN:978-4-8329-8202-4 定価 10,500円（税込）

本書はカナダの植生の分布や構成について日本語で詳述した文献であり、日本人がカナダの植生について学ぶ上で貴重な資料である。カナダは日本に比べ約26倍もの極めて広い国土を有しており、当然のことながら植生も多様である。この広範に渡る多様な植生を1人の研究者が単著執筆することは相当困難と予想されるが、本書の著者はカナダの大学院で博士課程を修了した後に引き続きカナダ環境省の機関等で研究を継続したキャリアを有しており、その過程で得た様々な知識や自身の研究成果も踏まえこの難題に取り組んだと推察される。

第1章でカナダの植生、気候、地勢・地質等の概要に触れた後、第2章から第10章にかけてカナダに認められる9つのバイオームそれぞれについて、詳述をしている。基本的にはどの章も主要な植生を淡々と語っており、一見すると単調にも見える。そういう意味では、例えば「どこの州の植生がどういう状況になっているのか」を知りたいと思った際に、該当する章だけを抜き出して読むという辞典的な使い方が向いていると考えられる。

しかし、全体を通じて読むことで得られるものもある。即ち、カナダの植生を規定する要因が、ある部分では日本のそれとかなり似ており、また一方で日本ではあまり重視されない要因もかなりあるという点だ。

例えば、日本の植生であれば主に気温、降水量、そして局所的には地質や多雪という要因も植生の規定に関わっていることが知られている。また最近では花粉分析や集団遺伝学的研究等により、最終氷期とそれに伴うユーラシア大陸との「地続き」が現在の植生に及ぼしている影響も明らかになってきた。カナダの場合も、同様に気温や降水量等が植生を規定する重要な要因にはなっている。とくにプレーリーのような乾燥地植生の形成には、降水量や蒸発散量のバランスが大きな要因になっているという。しかしまた、最終氷期（ウィスコンシン氷期）に国土の大部分を覆っていた氷床による影響が重視されている。それもただ単純に北方に氷床が広がっていたというのではなく、本書によれば、例えばユーコン地方（カナダ北西部）には氷床が広がらず、カナダ南部とより寧ろ陸続きとなったユーラシア大陸側と生物的交流があったため、特異な植生（ベーリング植生）が今も観察されるというし、マニトバ州の巨大な湖は過去に氷床が溶ける過程で作り出されたという。

地質や多雪による影響は日本で観察されるものと同様に、カナダでも局所的にはかなり重要な要因となるようだ。本書の中では例えばブリティッシュ・コロンビア州の中で玄武岩が局所的にモミの定着を促している箇所、ユーコン準州の中で石灰岩が局所的に森林限界高度を上方にシフトさせている箇所等を紹介している。積雪深も山岳地の一部では5 m以上に達することから、それが土壌の酸性化等を通じて植生に影響を与えているという。そういう意味では日本の植生が形成される過程と比較して、細部は別にしても、根本的な原理・仕組みというレ

ベルでは意外と類似点もあるのだなと気づかされる。

逆に日本ではあまり重視されていないもののカナダでは重視されていると思われる概念として、山火事や湿原、さらには永久凍土というものが挙げられる。とくに北方林の西部では火災の発生が多いことから、山火事による影響については第8章「北方性針葉樹林地域」の中で詳述されている。湿原も北方林の中では多く分布し、実にカナダの国土面積の約14%に及ぶという。本書では「湿原」を意味する英単語が実に多様にあることから始まり、湿原植物の分布が水のpHと水位によりどう規定されているかを詳述している。山火事・湿原・永久凍土のいずれも、日本の国土で観察できる事象ではあるが、カナダのそれとは規模が全く異なる。これらの事象についてはやはりカナダの方で研究の蓄積が多いと予想され、本書と本書で引用されている文献を通じ、学ぶべき点が多くあると思われる。

最後に付け加えると、本書で紹介されたカナダの多様な植生が現在どのように管理されているか、どんな課題（自然環境問題）を抱えているかについては、他の文献も併せて読むことを勧めたい。本書ではあまり触れられていないものの、森林業界による大規模伐採の影響、気候変動の影響、或いは自然保護区（国立公園）管理体制の民営化促進、さらには先住民との関わり等の中で、カナダの自然資源のあり方は刻一刻と変化を続けているようだ（私自身まだ勉強中である）。そして何よりも、本書と植物図鑑を携えてカナダの森の現地に足を運ぶことをお勧めしたい。

（ダルハウジー大学大学院環境科学専攻 大澤隆文）

Center for Ecological Research NEWS



京都大学 生態学研究センター

Center for Ecological Research
Kyoto University

京都大学生態学研究センター
〒 520-2113 滋賀県大津市平野 2 丁目 509-3
Tel : (077) 549-8200 (代表), Fax : (077) 549-8201
センター長 中野伸一

Center for Ecological Research, Kyoto University
2-509-3 Hirano, Otsu, Shiga,
520-2113, Japan
Home page : <http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp>

→→→→ 2014 (平成 26) 年度 共同研究公募のお知らせ ←←←←

京都大学生態学研究センターは、2010 (平成 22) 年度から『生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点』として活動してまいりました。センターでは生態学の基礎研究の推進と生態学関連の共同研究の推進を目的として、共同研究や研究集会・ワークショップなどの公募を毎年行っています。2014 (平成 26) 年度の公募につきましては 11 月上旬に開始の予定です。詳しくはその時期のセンターホームページをご参照ください。

2014 年度の公募は 2014 年 1 月 31 日が締め切り予定です。

2013 年度開催の研究集会・ワークショップ

『リンは何処 (いずこ) へ?—リン循環研究の現在と将来展望—』

開催日: 2013 年 11 月 (詳細未定) 開催地: 京都大学生態学研究センター

問い合わせ先: 小野寺真一 (広島大学大学院総合科学研究科・准教授) (E-mail : sonodera@hiroshima-u.ac.jp)

『"Big microbes" : International workshop on microbial ecology for young scientists』

開催日: 2013 年 10 月~12 月 (詳細未定) 開催地: 京都大学生態学研究センター

問い合わせ先: 近藤竜二 (福井県立大学海洋生物資源学部・教授) (E-mail : rykondo@fpu.ac.jp)

『若手研究者のための夏季観測プログラム in 琵琶湖』

開催日: 2013 年 8 月 17~23 日 開催地: 京都大学生態学研究センター、沖島の民宿

問い合わせ先: 奥田 昇 (京都大学生態学研究センター・准教授) (E-mail : nokuda@ecology.kyoto-u.ac.jp) ※ 終了しました。

『安定同位体生態学ワークショップ 2013』

開催日: 2013 年 8 月 31 日~9 月 6 日 開催地: 京都大学生態学研究センター

問い合わせ先: 陀安一郎 (京都大学生態学研究センター・准教授) (E-mail : tayasu@ecology.kyoto-u.ac.jp) ※ 終了しました。

⇄ センター関係者の動き ⇄

- 1) エクス・マルセイユ大学 (フランス)・ポスドク研究員の、Antonio Hernández-López 氏が、外国人研究員 (客員) として 4 月 10 日から 7 月 9 日まで滞在されました。
- 2) ジョージア大学オダム生態学研究所 (アメリカ合衆国)・助教の Richard Przemyslaw Shefferson 氏が、外国人研究員 (客員) として 6 月 16 日から 9 月 15 日まで滞在されました。
- 3) ペンガル工科大学 (インド)・教授の Tapan Kumar Kar 氏が、外国人研究員 (客員教授) として 10 月 1 日から 12 月 31 日まで滞在予定です。
- 4) トロムソ大学 (ノルウェー)・准教授の Elisabeth Joy Cooper 氏が、外国人研究員 (客員准教授) として 12 月 15 日から 2014 年 3 月 14 日まで滞在予定です。

◆会費

会費は前納制で、学会の会計年度は1月から12月までです。
新年度の会費は12月に請求をします。会費未納者に対しては6月、9月に再請求します。
下記会費および地区会費の合計を次の口座にお振込ください。

郵便振替口座番号 01070-6-19256 口座名：日本生態学会

退会する際は前年12月末までに退会届を事務局まで提出してください（ウェブサイト申込フォーム有り）。
会費を1年分滞納した会員には会誌の発送を停止し、2年分滞納した時は自動的に退会処分となります。

会員の区分と個人会員の権利・会費 2013年をもってABC会員は完全廃止になります

会員種別	年会費* (保全誌購読者**)	大会発表	総会・委員 (選挙・被選挙権)
正会員（一般）	11000 円 (13000 円)	○	○
正会員（学生）	8000 円 (10000 円)	○	○
団体会員	22000 円	×	×

*生態学会では収入の少ない若手一般会員のために、学会費・大会参加費を学生会員と同額にする措置を実施します。
詳細はウェブサイトをご覧ください。

**非会員の方の保全誌定期購読料は年額 5000 円です。
なお、保全誌は発行後2年間、オンラインアクセスができません

【論文投稿の権利】

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ・日本生態学会誌 | 正会員のみ有 |
| ・保全生態学研究 | 正会員・保全誌定期購読者のみ有 |
| ・Ecological Research | 投稿権利は会員に限定されません |

【冊子を必要としない（オンラインアクセスのみの）会員への割引】

- | | |
|----------------------|-------|
| ・日本生態学会誌 | 600 円 |
| ・Ecological Research | 900 円 |

既会員の方が今後申請される場合は、割引を受けたい年の前年10月末までに問い合わせページを通じて事務局へご連絡ください。

新たに入会される方は入会時に申請があれば入会年より適用されます。

地区会費

正会員は、住所（所属機関か自宅のうち、郵送物の配布先となっているほう）により、地区会に参加することになっています。各地区会ではそれぞれ独自に地区会費を定めています。学会費の納入時には、これらも含めて請求しますので、あらかじめご了承ください。

- ・北海道地区（200 円）：北海道
- ・東北地区（600 円）：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
- ・関東地区（500 円*）：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県
- ・中部地区（0 円）：長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
- ・近畿地区（400 円）：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
- ・中・四国地区（400 円）：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
- ・九州地区（700 円）：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

*2014年より400円（ただし当面は徴収しない）

問い合わせ先：日本生態学会事務局

〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8

Tel&Fax 075-384-0250 <http://www.esj.ne.jp/>

※お問い合わせはウェブサイトからお願い致します。